

福井工業大学 学生員 ○増田 真司

福井工業大学 正会員 和田 章仁

1. はじめに

町並みの景観は、それらを形成する景観構成要素の違いによって決定されるものである。特に温泉地という空間は、ここを訪れる観光客にとっては非日常的なものであり、温泉地らしい情緒や風情といったものが醸し出されているような景観形成が求められる。そこで本研究では、温泉地における景観構成要素と散策行動との関わりについて検討するため、温泉地における研究¹⁾から、北陸の代表的な温泉地の中でも、特に散策する人の割合が高かった山中温泉と山代温泉に絞り、それぞれの温泉地において散策していた人を対象にアンケート調査を行った。その結果を比較、検討することにより、温泉地の景観の向上と快適な散策路の形成に向けての方向性を探るものである。

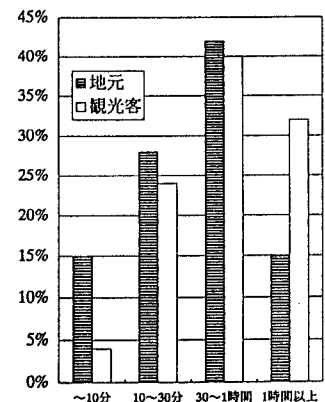
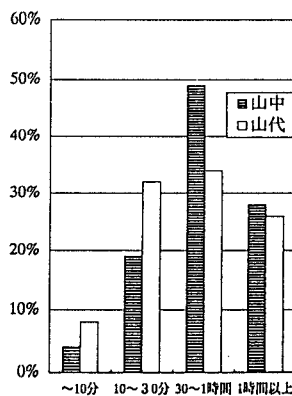
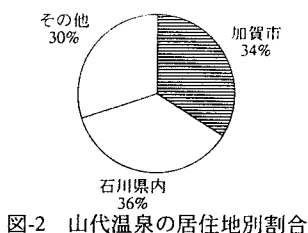
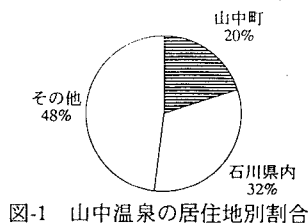
2. 調査方法

調査は1998年10月10日（祝日）に、山中温泉と山代温泉において地元の人、観光客の別を問わず散策している人を対象にインタビュー方式によるアンケート調査を行った。この調査の結果、得られた有効票数は山中、山代温泉ともに100票ずつであった。この調査における設問内容は、散策者の個人属性（性別、年齢、居住地）、散策の状況等（時間、理由、目的、不満）、温泉地の景観（良い印象、望まれるもの、評価）についてである。

3. 調査結果

①散策状況

散策していた人の居住地をみると、山中温泉では観光客で散策していた人の割合は80%、山代温泉では66%であり、山中温泉の方が観光客の占める割合が大きい（図-1、図-2参照）。また、温泉地別の散策時間をみると、山中温泉では30分以上散策した人の割合が77%であり、山代温泉では60%であることから、山中温泉における散策者の方が、より長い時間散策していることが分かる（図-3参照）。また、居住地別の散策時間では、地元の人で30分以上散策した人の割合は57%、観光客では72%であることから、観光客の散策時間が地元の人に比べ長いことが分かる（図-4参照）。



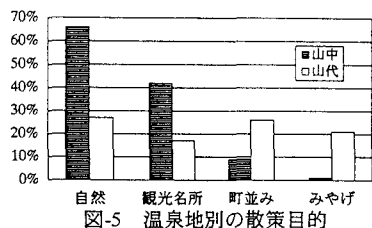


図-5 温泉地別の散策目的

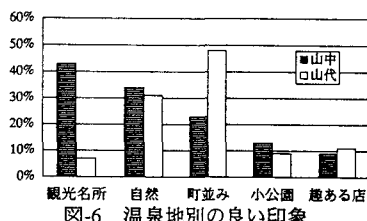


図-6 温泉地別の良い印象

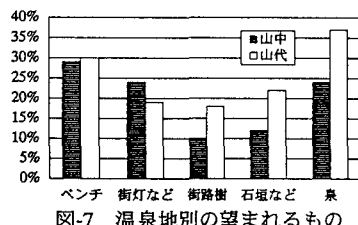


図-7 温泉地別の望まれるもの

②温泉地別における散策目的の主なもの

山中、山代温泉において散策している人の目的を尋ねたところ、山中温泉においては「自然を満喫するため」が66%、「橋などの観光名所を見るため」が42%と「町並みを見るため」「みやげを買うついでに」に比べて高くなっているのに対し、山代温泉においては、いずれも20%前後とさほどの開きはない。この結果を分析してみると、山中温泉の散策者は『自然』や『観光名所』といったはっきりとした目的意識を持って散策しているのに対し、山代温泉の散策者にははっきりとした目的意識が見当たらないことが分かる。このことから、山中温泉では鶴仙溪遊歩道に沿った豊かな自然やおおろぎ橋などの観光名所が、散策者を惹きつける核となっているのに対し、山代温泉には、山中温泉にあるような散策者を惹きつける強力な核が存在しないことが分かる（図-5 参照）。

③温泉地別の良い印象に残った主なもの

散策者が山中、山代温泉において良い印象に残ったものをみると、山中温泉では「橋などの観光名所」が43%、「手付かずの自然」が34%と高く、山代温泉では「風情ある町並み」が48%と高くなっている。この結果を分析してみると、山中温泉では『観光名所』や『自然』が散策目的と同様、高い支持を得ているのに対し、山代温泉では『町並み』が散策目的に比べて高い支持を得ていることが分かる。このことから、山代温泉の町並みは風情あるものであることが分かる（図-6 参照）。

④温泉地に望まれる主なもの

散策者が山中、山代温泉に対してどういった施設を望んでいるかをみると、山中温泉においては「ひと休みすることのできるベンチなど」が29%、山代温泉においては「水に親しむことができる泉やせせらぎ」が37%とそれぞれ最も高くなっているが、全体としては、図-7に示すとおり山中、山代温泉とも同じような傾向である。この結果から、散策者は山中、山代温泉に対してベンチなど休憩施設の設置、泉のような親水空間の整備を強く望んでいることが分かる。さらに「景観に配慮した街灯や案内板」「町に風情を与える石垣や石畳」といった、温泉情緒を醸し出す景観構成要素の設置や整備も望んでおり、これらをそれぞれの町並みに合わせた形で整備していくことが求められる。

4. まとめ ～温泉地の景観の向上と快適な散策路の形成に向けて～

山中温泉においては『自然』や『観光名所』といった、散策者を惹きつける強力な核が存在することから、これらの観光資源を生かすためにも、快適な散策路の形成のために、ベンチなど休憩施設の設置が望まれる。また、古い町並みを有する山中温泉らしさを演出するために、街灯や案内板及び石垣や石畳といった景観構成要素の設置及び整備も望まれる。一方、山代温泉では、山中温泉にあるような強力な核が存在しないことが分かった。しかしながら、今回の調査結果では『町並み』に対する評価が高かったことから、これを核として、泉のような親水空間や街路樹など緑陰の整備にあたり、山代温泉らしいデザインの街灯や案内板の設置及び石垣や石畳の整備が求められる。

【参考文献】

- 1) 温泉宿泊者からみた温泉街の魅力に関する考察：橋誠一郎・和田章仁 土木学会関西支部年次学術講演概要、1998年5月